

NPO 法人 DANCEBOX について

障がい者文化芸術活動に関する取り組み

2001 年～ ビッグアイ 障がい者芸術・文化オープンカレッジ/ダンスコースコーディネーター

2003 年 奈良県十津川村 障がい者支援施設「こだまの里」
インドネシアの振付家ダンサー マルティヌス・ミロトによるダンスワークショップ。

2004 年 奈良県十津川村 障がい者支援施設「こだまの里」10 周年祭
利用者さん、介護、看護スタッフとダンス作品の制作。
振付家、音楽家、美術家が施設に一定の期間滞在し、ワークショップを通じて作品を制作。

2008 年 循環プロジェクトスタート

障がいのあるないを超えて新しい身体表現を生み出す試み。

障がいをマイナスにとらえるのではなく、独自性と考え、多様な方向から創造性を引出し、ダンスの可能性を未来に向けて切り開く試み。

「≡2」にあいこーるのじじょう は 2008 年 4 月の初演後、東京、松山、神奈川、三田等 6 か所を巡演。障がい者

Thikwa+循環プロジェクト

2008 年にスタートした循環プロジェクトは、障がいのあるないを越えた舞台芸術を目指すプロジェクト。ダンス、音楽、美術のナビゲーターを選び既成の概念を越えた作品づくりを目指した。「≡2」にあいこーるのじじょう は 2008 年 4 月の初演後、東京、松山、神奈川、三田等 6 か所を巡演。障がい者のダンス作品という枠組みを越えて、新しいコンテンポラリーダンスの作品として高い評価を得る。

2009 年、ベルリンの障がい者とそうでない人が組織する Thikwa とコラボレーションを始め、2011 年 Art Theater dB Kobe・滋賀公演、2012 年ベルリン・京都公演を実施。神戸公演では客席を舞台に音や映像でも実験的な試みがなされた。総合演出は砂連尾理。

コラボ・シアター・フェスティバル 2010（東京）／鹿の劇場（奈良たんぼぼの家）等のディレクション。

福祉事業型専攻科エコール神戸／リボンネット明石等へのダンス講師の派遣

障害者の文化芸術活動の推進において必要だと思われる施策について

- 1・障がい者が健常者とともに、芸術文化活動を継続できる施設の設置。
劇場、リハーサルスタジオ、ギャラリー、工房、会議室、食堂があることが望ましい。
- 2・美術に限らず、舞台芸術を継続的に活動できる経済的な保証制度がほしい。
- 3・質の高い芸術作品を生み出すための指導者の育成。
- 4・障がい者、健常者が共に協働して作品制作ができる環境の設置。
- 5・国内外の障がい者が競演・交流できるフェスティバルの開催。
- 6・障がい者が滞在制作できる施設の設置。
- 7・医師、看護師、介護士等、福祉の現場で活動する人への芸術文化に関するワークショップの実施。

NPO法人 DANCE BOX